

## よんで「たえよう」

とをあけたとき、おかみさんはあつとおどろきました。

いたの間に、白い糸のたばが、山のようにつんであったのです。そのうえ、ほこりだらけのはずの糸車には、まきかけた糸までかかっています。

「はあて、ふしぎな。どうしたこっちゃ。」

おかみさんは、そうおもいながら、土間でごはんをたきはじめました。すると、

キーカラカラ キーカラカラ

キークルクル キークルクル

と、糸車のまわる音がきこえてきました。びっくりしてふりむくと、いたどのかげから、ちやいろのしっぽがちらりと見えました。

そっとのぞくと、いつかのたぬきが、じょうずな手つきで、糸をつむいでいるのです。たぬきは、つむぎおわると、こんどは、いつもおかみさんがしていたとおりに、たばねてわきにつみかさねました。

たぬきは、ふいに、おかみさんののぞいているのに気がつきました。

たぬきは、びよこんとそとにとび下りました。そして、うれしくてたまらないというように、ぴよんぴよこおどりながらかえっていききましたとき。

① あなたのなまえをきれいにかきましよう。

② おかみさんが おどろいたのは、いつですか。

③ いたのまに、なにが つんでありましたか。

④ 糸車は、ほこりだらけでしたか。

⑤ 糸車は、どうなっていましたか。

⑥ おかみさんは、どうおもいましたか。

⑦ ごはんを たきはじめると、なにがきこえてきましたか。

⑧ びっくりしてふりむくと、なにがちらりと見えましたか。

⑨ 糸をつむいでいたのは、だれですか。

⑩ たぬきは、どんなようすで かえっていきましたか。